

経営比較分析表（平成29年度決算）

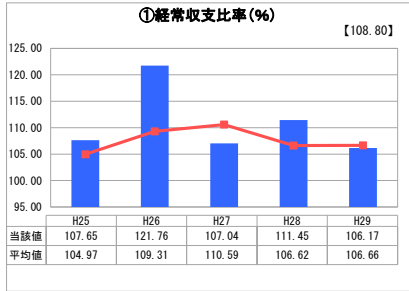
埼玉県 日高市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.55	59.06	84.98	2,710

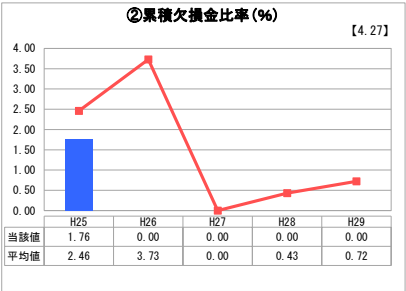
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
56,340	47.48	1,186.60
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
33,206	5.21	6,373.51

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

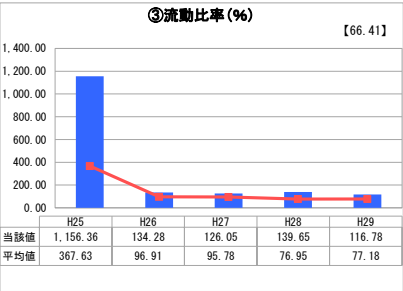
1. 経営の健全性・効率性



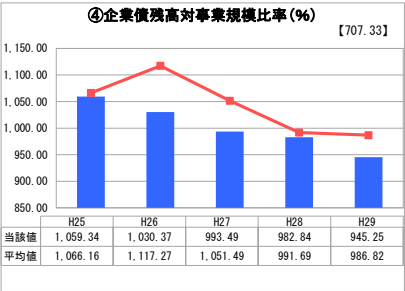
「経常損益」



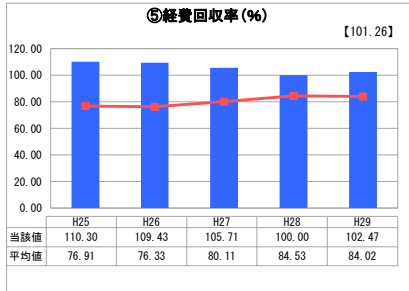
「累積欠損」



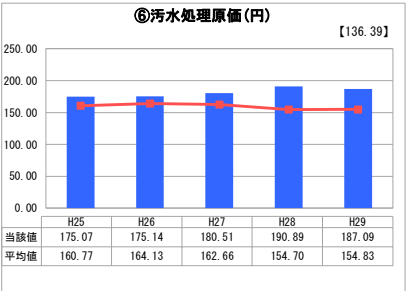
「支払能力」



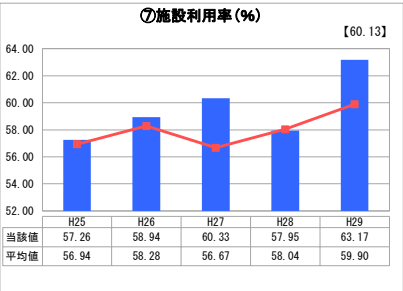
「債務残高」



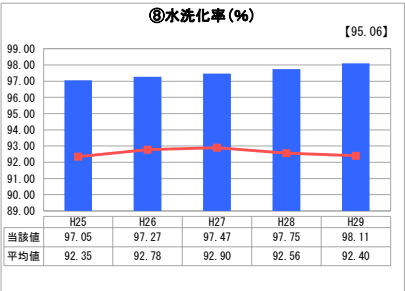
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

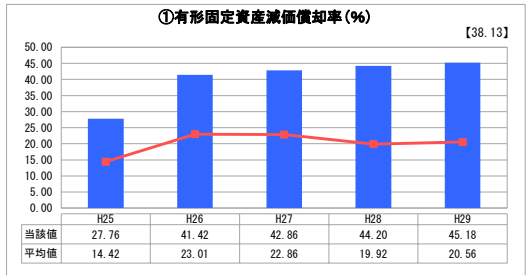


「施設の効率性」

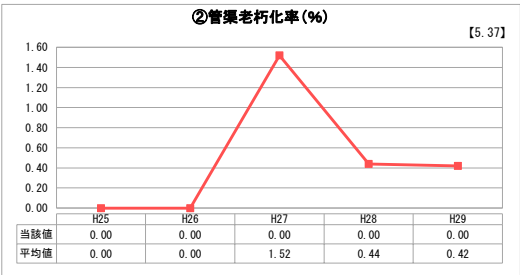


「使用料対象の捕捉」

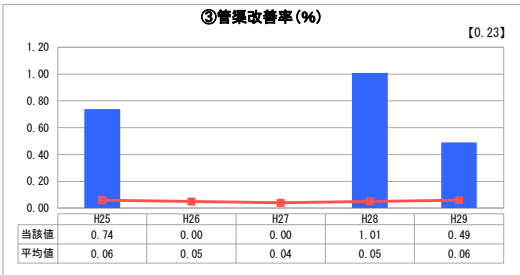
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収支は黒字が続いているものの、今後予想される施設の更新工事に備え維持管理費の更なる縮減に努めます。
- ②平成26年度から累積欠損金は発生していません。今後も欠損金が発生しないように経営の安定化に努めます。
- ③流動比率は100%を超えており、必要な資金は確保されていますが、中期的な企業債償還額を念頭に経営の効率化を図ります。
- ④企業債残高は減少傾向にありますが、今後予定される更新工事等について、ストックマネジメント計画及び経営戦略に基づき、投資の平準化に努め経営の安定化を図ります。
- ⑤経費回収率は100%を超えており、対象経費は使用料で賄えている状況が続いています。今後も維持管理費の縮減に努めます。
- ⑥単独処理場を有しており、総的に処理原価が高くなっているため、更なる維持管理費の縮減に努めます。
- ⑦当該値は、平均値以上となっていることから、ある程度の施設利用がなされているといえます。
- ⑧当該値は平均値と比べ高い水準にありますが、引き続き普及促進に努めます。

2. 老朽化の状況について

- ①昭和63年の供用開始後30年を経過し、終末処理場の機械・電気設備が法定耐用年数を超え、当該値が平成26年度から高くなっています。ストックマネジメント計画を作成し、施設の更新・延命化を効率的に行うことで、投資の平準化を図ります。
- ②法定耐用年数を経過した管渠はないが、今後予想される管渠の更新を見据え計画的な点検等を実施してまいります。
- ③武蔵台・横手台地区の公共下水道への接続のための更新工事を実施しました。管渠の改築・更新については、費用対効果を検証し効率的な工法により実施してまいります。

全体総括

平成29年度末における日高市公共下水道事業の経営状況は、経常収支が黒字であること、累積欠損金がないこと、水洗化率が高いこと、翌年度の支払金が確保されていることなどから比較的经营が安定していることが伺えます。

しかしながら、今後老朽化する施設の更新を行うことにより、大量の投資が発生するため、ストックマネジメント計画の着実な実行や経営戦略の中期的な見直しにより経営分析を適切に行い、投資の平準化に努め、持続可能な下水道事業の経営に努めていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。